

記者発表資料（資料配布）					
発表日	担当課名	電話	発表者名（担当者）	その他配布先	
9月16日(火)	病院局経営課	078-362-3301	経営課長 市川 裕造 (経営班長 近藤 昭広)	阪神南、東播磨、中播磨、西播磨、丹波、淡路各県民局(県民センター)	

令和6年度 兵庫県病院事業の経営状況について

1 経営状況（13病院）

令和6年度の経常収益は、前年度まで交付されていた新型コロナウイルス感染症にかかる病床確保料がなくなったものの、患者数の増加や診療単価の向上によって入院収益、外来収益ともに増加したことなどから、令和5年度に比べ60億円増加した。

一方、経常費用は、人事委員会勧告に基づく給与改定等による給与費の増加、物価高騰に伴う材料費や経費の増加により、経常収益の伸びを上回る98億円の増加となった。これらの結果、経常損失は令和5年度から38億円増加の128億円となり、純損失は133億円となった。

昨今の急激な賃金や物価の上昇に、十分な対応が出来ていない現行の診療報酬水準の下、費用の増加を賄うだけの収益が確保できず、厳しい経営状況が続いている。

【決算状況(13病院)】

(単位：百万円)

区分	令和5年度	令和6年度	前年度比較	
			増減	割合(%)
経常収益	入院収益	92,746	97,659	4,913 105.3
	外来収益	39,809	41,352	1,543 103.9
	その他医業収益	2,737	3,007	270 109.9
	医業収益 計	135,292	142,018	6,726 105.0
	一般会計繰入金	16,264	16,637	373 102.3
	その他収益	11,546	10,484	△ 1,062 90.8
	うち病床確保料	1,140	0	△ 1,140 0.0
合計①		163,101	169,140	6,039 103.7
経常費用	給与費	81,211	87,530	6,319 107.8
	材料費	47,885	49,710	1,825 103.8
	経費	27,641	29,325	1,684 106.1
	その他医業費用	13,081	13,079	△ 2 100.0
	医業費用 計	169,818	179,644	9,826 105.8
	その他費用	2,373	2,345	△ 28 98.8
	合計②	172,191	181,988	9,797 105.7
経常損益③(①-②)	△ 9,090	△ 12,849	△ 3,759	—
特別利益④	274	98	△ 176	35.8
特別損失⑤	602	532	△ 70	88.4
当期純損益⑥(③+④-⑤)	△ 9,417	△ 13,283	△ 3,866	—

※ 計数については、百万円未満四捨五入のため、合計が合わない場合がある。以下の表についても同様。

(単位：百万円)

区分	尼崎	西宮	加古川	姫路	丹波	淡路	こころ	こども	がん	粒子線		10病院計	指定管理			計	
										たつの	神戸陽子		災害	リハ中	リハ西		
R5 決算	経常損益	△1,315	△1,028	△1,134	△2,407	△870	△454	△179	△87	△279	△919	△418	△9,090	0 (△25)	0 (41)	0 (△17)	△9,090 (△1)
	純損益	△1,537	△827	△1,190	△2,453	△1,008	△486	△202	△93	△284	△919	△418	△9,417	0 (△25)	0 (41)	0 (△17)	△9,417 (△1)
R6 決算	経常損益	△2,196	△1,784	△1,495	△1,992	△1,271	△796	△351	△1,609	△285	△671	△400	△12,849	0 (△42)	0 (△19)	0 (△24)	△12,849 (△85)
	純損益	△2,188	△1,830	△1,494	△2,389	△1,280	△800	△350	△1,610	△286	△656	△400	△13,283	0 (△42)	0 (△19)	0 (△24)	△13,283 (△85)

※ ()書きは指定管理病院の決算を記載

【業務量(13病院)】

区分		単位	令和5年度	令和6年度	前年度比較
入院	病床数(年度末)	床	4,394	4,394	0
	病床利用率	%	78.6	81.2	2.6
	延患者数	人	1,263,463	1,301,939	38,476
	1日当たり患者数	人/日	3,452	3,567	115
	平均在院日数	日	12.8	12.5	△ 0.3
	入院単価	円	78,538	80,040	1,502
外来	延患者数	人	1,744,458	1,778,308	33,850
	1日当たり患者数	人/日	7,179	7,318	139
	外来単価	円	23,609	24,029	420

2 資本的収支の決算状況

(単位：百万円)

区分		令和5年度	令和6年度	前年増減	主な増減理由
収入	企業債	10,731	15,350	4,619	西宮総合医療センター（仮称）整備事業、電子カルテ更新整備に伴う増
	負担金	6,990	7,641	651	一般会計負担金の増
	その他収入	1,040	1,034	△ 6	看護師修学資金貸付金返還収入等の減
	合計	18,761	24,024	5,263	
支出	建設改良費	12,478	16,374	3,896	西宮総合医療センター（仮称）整備事業+837(6,469→7,306) がんセンター建替整備事業+77(371→448) 医療機器整備事業+2,926(5,078→8,004)
	企業債償還金	11,546	12,481	935	はりま姫路総合医療センター医療機器償還開始に伴う増
	その他支出	115	114	△ 1	粒子線治療貸付金等の減
	合計	24,139	28,969	4,830	
差引	△ 5,377	△ 4,945	432		

3 累積欠損金、内部留保資金等

令和6年度末の累積欠損金は、当期純損益が133億円の赤字となったことから629億円となり、334億円の債務超過となった。

また、内部留保資金は79億円のマイナスとなった。

(単位：百万円)

区分	令和5年度	令和6年度
当期純損益	△ 9,417	△ 13,283
累積欠損金	△ 49,571	△ 62,854
資本合計	△ 20,356	△ 33,437
内部留保資金残高	3,348	△ 7,914

※ 金額は損益計算書ベース（税抜き）で作成

4 令和7年度の取組について

次期診療報酬改定（令和8年度）に向け、国等に対して物価や賃金の急激な上昇に対応する十分な診療報酬の確保等を要望していくとともに、令和6年度に設置した外部有識者からなる「県立病院経営対策委員会」での議論を踏まえ決定した収支改善策に、各病院と病院局が一丸となって取り組み、持続可能な経営の確保に努める。

記者発表（資料配布）				
月・日 (曜日)	担当部課 担当名	TEL	発表者名 (担当部長名)	その他の 配布先
9/16 (火)	尼崎総合医療センター 経営企画部	代表 06-6480-7000 内線 24049	管理局長 和泉 秀樹 (経営企画部長 瀧口 直彦)	県政記者 クラブ

令和6年度 県立尼崎総合医療センターの経営状況について

1 経営状況

- (1) 経常収益は、医師向けWeb発信サイトの活用や地元FMによる例月オンエアなど積極的な広報に努めるなど、予定入院患者の増加等による当院の高度専門医療機能の発現により医業収益が前年度から2,025百万円増加したものの、医業外収益は新型コロナウイルス感染症の空床補償補助金制度の廃止に伴い前年度から151百万円減少し、39,744百万円となった。
- (2) 経常費用は、給与改定や会計年度任用職員に対する勤勉手当創設等による給与費の増、賃金上昇や物価高騰という社会情勢の波を受け経費が増加したことに加え、収益連動性の強い材料費も高度医療提供の裏返しとして増加した結果、前年度から2,761百万円増加し41,940百万円となった。
- (3) その結果、経常損益は、前年度から881百万円悪化し、2,196百万円の赤字となった。

区分	単位	令和5年度	令和6年度	前年度比較	
				増減	割合(%)
業務量	病床数(年度末)	床	730	730	0 100.0
	延患者数	人	234,767	236,041	1,274 100.5
	1日当たり患者数	人	641	647	6 100.9
	新規患者数	人	22,071	23,075	1,004 104.5
	平均在院日数	日	9.6	9.2	△ 0.4 96.3
	診療単価	円	100,082	106,532	6,450 106.4
外来	延患者数	人	448,828	448,592	△ 236 99.9
	1日当たり患者数	人	1,847	1,846	△ 1 99.9
	新規患者数	人	34,170	34,829	659 101.9
	診療単価	円	20,233	21,002	769 103.8
経常収益	入院収益	百万円	23,496	25,146	1,650 107.0
	外来収益	百万円	9,081	9,421	340 103.7
	その他医業収益	百万円	640	675	35 105.5
	医業収益 計	百万円	33,217	35,242	2,025 106.1
	一般会計繰入金	百万円	2,847	2,854	7 100.2
	その他収益	百万円	1,799	1,648	△ 151 91.6
	合計①	百万円	37,863	39,744	1,881 105.0
経常費用	給与費	百万円	18,805	20,413	1,608 108.6
	材料費	百万円	12,433	13,306	873 107.0
	経費	百万円	5,342	5,576	234 104.4
	その他医業費用	百万円	2,231	2,280	49 102.2
	医業費用 計	百万円	38,811	41,575	2,764 107.1
	その他費用	百万円	367	365	△ 2 99.5
	合計②	百万円	39,179	41,940	2,761 107.0
経常損益③(①-②)		百万円	△ 1,315	△ 2,196	△ 881 -
特別利益④		百万円	8	30	22 375.0
特別損失⑤		百万円	230	22	△ 208 9.6
純損益⑥(③+④-⑤)		百万円	△ 1,537	△ 2,188	△ 651 -

※1 金額は税込み。計数については、百万円未満四捨五入のため、合計が合わない場合がある。

2 診療機能の充実や施設・医療機器の整備状況

(1) 診療機能の充実

①医療の効率性向上

- ・ PFM (Patient Flow Management) による適正な平均在院日数の確保 (R5 9.6 日→R6 9.2 日)
- ・ DPC 入院期間Ⅲ期及びⅢ期超えの適正な水準の確保 (R5 23.8%→R6 23.5%)
- ・ クリニカルパス適用率の拡大 (R5 70.8%→R6 72.0%)

②オペ室の効率的運用

- ・ オペ室運用分析に基づく稼働率向上
- ・ 外保連指指数の向上

③診療材料費の適正化

- ・ ベンチマークシステムを活用した値引き交渉の強化

(2) 施設・医療機器の整備

- ①遠隔操作型内視鏡下手術支援システム（ダヴィンチ）の増設（約 249 百万円、令和 6 年 6 月）
- ②血管連続撮影装置の更新（約 158 百万円、令和 7 年 2 月）
- ③磁気共鳴画像診断装置の更新（約 149 百万円、令和 7 年 3 月）

3 今後の取組

①医療の効率性向上

- ・ PFM による平均在院日数の短縮
- ・ DPC 入院期間Ⅲ期及びⅢ期超えの縮減
- ・ クリニカルパス適用率の拡大

②オペ室の効率的運用

- ・ オペ室運用分析に基づく稼働率向上
- ・ 外保連指指数の向上

③診療材料費の適正化

- ・ ベンチマークシステムを活用した値引き交渉の強化

[参考] 令和 6 年度 兵庫県病院事業の経営状況について（別紙のとおり）

記者発表（資料配布）				
月・日 (曜日)	担当部課 担当名	TEL	発表者名 (担当部長名)	その他の 配布先
9/16 (火)	西宮病院 総務部	代表 0798-34-5151 内線 3201	管理局長 安木 雅喜 (総務部長 岡本 昌)	県政記者 クラブ

令和6年度 県立西宮病院の経営状況について

1 経営状況

- (1) 経常収益は、救急患者の受入体制の強化等による入院患者の増加や入院単価のアップにより医業収益が466百万円増額となったことに伴い、前年度と比較して273百万円増額し、13,382百万円となった。
- (2) 経常費用は、医業収益に連動した材料費の増加に加え、物価高騰や人事委員会勧告による人件費が増加となったことに伴い、前年度と比較して1,029百万円増額し、15,166百万円となった。
- (3) その結果、経常損益は前年度から756百万円悪化し、1,784百万円の赤字となった。

区分	単位	令和5年度	令和6年度	前年度比較	
				増減	割合(%)
業務量	病床数(年度末)	床	400	400	0 100.0
	延患者数	人	110,950	111,792	842 100.8
	1日当たり患者数	人	303	306	3 101.0
	新規患者数	人	9,983	10,294	311 103.1
	平均在院日数	日	10.1	9.9	△ 0.2 98.0
	診療単価	円	72,154	74,663	2,509 103.5
外来	延患者数	人	147,278	146,636	△ 642 99.6
	1日当たり患者数	人	606	603	△ 3 99.5
	新規患者数	人	11,118	11,366	248 102.2
	診療単価	円	21,034	21,758	724 103.4
経常収益	入院収益	百万円	8,005	8,347	342 104.3
	外来収益	百万円	3,098	3,191	93 103.0
	その他医業収益	百万円	221	253	32 114.5
	医業収益計	百万円	11,325	11,791	466 104.1
	一般会計繰入金	百万円	1,106	1,122	16 101.4
	その他収益	百万円	678	469	△ 209 69.2
合計①		百万円	13,109	13,382	273 102.1
経常費用	給与費	百万円	7,924	8,441	517 106.5
	材料費	百万円	3,547	3,906	359 110.1
	経費	百万円	1,906	2,098	192 110.1
	その他医業費用	百万円	695	654	△ 41 94.1
	医業費用計	百万円	14,073	15,099	1,026 107.3
	その他費用	百万円	64	67	3 104.7
合計②		百万円	14,137	15,166	1,029 107.3
経常損益③(①-②)		百万円	△ 1,028	△ 1,784	△ 756 -
特別利益④		百万円	240	26	△ 214 10.8
特別損失⑤		百万円	39	72	33 184.6
純損益⑥(③+④-⑤)		百万円	△ 827	△ 1,830	△ 1,003 -

※1 金額は税込み。計数については、百万円未満四捨五入のため、合計が合わない場合がある。

2 診療機能の充実や施設・医療機器の整備状況

(1) 診療機能の充実

- ① 準夜帯の初療（救急）勤務看護師を2名から3名へ増員するなど救急患者の受入体制を強化（令和6年4月～）
- ② 手術枠の増枠及び各診療科への配分の見直しによる手術室の効率的運用（令和6年8月～）
- ③ 人工関節センターの開設（令和6年11月～）

(2) 施設・医療機器の整備

- ① 遠隔操作型内視鏡下手術支援システム（ダヴィンチ）（253百万円）の整備（令和6年9月～）
- ② A I 画像診断支援システム（約19百万円）の整備（令和7年2月）

3 今後の取組

- ① 西宮市立中央病院との統合新病院を見据えた診療体制の強化
- ② 脳神経内科の前倒し開設による脳梗塞治療の強化等
- ③ 患者受入体制の強化による救急応需率の向上
- ④ 手術枠の見直し等による手術室の更なる効率化
- ⑤ 循環器系診療体制の強化

[参考] 令和6年度 兵庫県病院事業の経営状況について（別紙のとおり）

記者発表（資料配布）				
月・日 (曜日)	担当部課 担当名	TEL	発表者名 (担当部長名)	その他の 配布先
9/16 (火)	加古川医療センター 総務部	代表 079-497-7000	管理局長 吉川 昭裕 (総務部長 藤田 真也)	県政記者 クラブ

令和6年度 県立加古川医療センターの経営状況について

1 経営状況

- (1) 経常収益は、新型コロナウイルス感染症関連補助金の終了により医業外収益は減少したものの、地域医療連携の強化による新規患者の確保や救急受入れ体制の確保など、収益の向上に取り組んだ結果、患者数の増による医業収益の増加により、前年度から 270 百万円増加し、13,008 百万円となった。
- (2) 経常費用は、給与改定に伴う給与費の増加や、物価上昇の影響を受けた材料費・経費の増加などにより、前年度から 631 百万円増加し、14,503 百万円となった。
- (3) その結果、経常損益は前年度から 361 百万円悪化し、1,495 百万円の赤字となった。

区分	単位	令和5年度	令和6年度	前年度比較	
				増減	割合(%)
業務量	病床数(年度末)	床	353	353	0 100.0
	延患者数	人	90,587	96,239	5,652 106.2
	1日当たり患者数	人	248	264	16 106.5
	新規患者数	人	6,869	6,987	118 101.7
	平均在院日数	日	11.1	11.5	0.4 103.6
	診療単価	円	70,294	71,142	848 101.2
	延患者数	人	165,071	166,898	1,827 101.1
	1日当たり患者数	人	679	687	8 101.2
	新規患者数	人	9,214	9,144	△ 70 99.2
	診療単価	円	21,604	21,341	△ 263 98.8
経常収益	入院収益	百万円	6,368	6,847	479 107.5
	外来収益	百万円	3,566	3,562	△ 4 99.9
	その他医業収益	百万円	251	278	27 110.8
	医業収益計	百万円	10,185	10,687	502 104.9
	一般会計繰入金	百万円	1,334	1,336	2 100.1
	その他収益	百万円	1,219	985	△ 234 80.8
	合計①	百万円	12,738	13,008	270 102.1
経常費用	給与費	百万円	6,945	7,489	544 107.8
	材料費	百万円	3,358	3,453	95 102.8
	経費	百万円	2,174	2,298	124 105.7
	その他医業費用	百万円	1,104	977	△ 127 88.5
	医業費用計	百万円	13,580	14,217	637 104.7
	その他費用	百万円	293	286	△ 7 97.6
	合計②	百万円	13,872	14,503	631 104.5
経常損益③(①-②)	百万円	△ 1,134	△ 1,495	△ 361	-
特別利益④	百万円	3	8	5	266.7
特別損失⑤	百万円	59	7	△ 52	11.9
純損益⑥(③+④-⑤)	百万円	△ 1,190	△ 1,494	△ 304	-

※1 金額は税込み。計数については、百万円未満四捨五入のため、合計が合わない場合がある。

2 診療機能の充実や施設・医療機器の整備状況

(1) 診療機能の充実

- ① 救急受入れ体制の強化（外傷系2次救急患者の受入れ促進等）
- ② 県かこ県民フォーラムや地域医療連携会議開催等による情報発信の強化
- ③ 病院機能評価の認定（令和7年3月）

(2) 施設・医療機器の整備

- ① C T搭載型血管連続撮影装置（約157百万円）の整備（令和6年9月）
- ② 電子内視鏡システム（約22百万円）の整備（令和6年9月）
- ③ 全自動P T Pシート払出装置（約26百万円）の整備（令和7年3月）

3 今後の取組

- ① 神経難病センターの設置による機能充実（令和7年4月）
 - ② 稼働病床数の見直しによる運営の効率化（令和7年4月）
 - ③ ベンチマーク（全国の医療機関の購入価格情報）を活用した診療材料の値引交渉強化
 - ④ 安価なバイオ後続品（バイオシミラー）※の使用促進による材料費の削減
- ※国内で既に新有効成分含有医薬品として承認されたバイオテクノロジー応用医薬品（先行バイオ医薬品）と同等／同質の品質、安全性、有効性を有する医薬品として、異なる製造販売業者により開発される医薬品
- ⑤ 卒後臨床研修評価機構（J C E P）による評価の受審

[参考] 令和6年度 兵庫県病院事業の経営状況について（別紙のとおり）

記者発表（資料配布）				
月・日 (曜日)	担当部課 担当名	TEL	発表者名 (担当部長名)	その他の 配布先
9/16 (火)	はりま姫路総合医療センター 経営企画部	代表 079-289-5080 内線 77021	管理局長 柏木 英士 (経営企画部長 石田 智司)	県政記者 クラブ

令和6年度 県立はりま姫路総合医療センターの経営状況について

1 経営状況

- (1) 経常収益は、地域医療機関との連携推進や救急患者の積極的な受け入れなどの結果、入院、外来とも患者数が増加したほか手術件数の増加などにより、前年度比 2,592 百万円増の 33,766 百万円となった。
- (2) 経常費用については、材料費や経費の抑制、節減に取り組んだが、大幅な給与の増額改定や物価高の影響に加え、依然として重い減価償却費の負担が続いていることから、前年度から 2,177 百万円増加し 35,758 百万円となった。
- (3) その結果、経常損益は、前年度から 415 百万円改善したものの、1,992 百万円の赤字となった。
- (4) また、旧県立姫路循環器病センター建物等解体工事費 400 百万円などを特別損失に計上したため、純損益は 2,389 百万円の赤字となった。

区分	単位	令和5年度	令和6年度	前年度比較	
				増減	割合(%)
業務量	病床数(年度末)	床	736	736	0 100.0
	延患者数	人	218,267	233,843	15,576 107.1
	1日当たり患者数	人	596	641	45 107.6
	新規患者数	人	17,689	19,548	1,859 110.5
	平均在院日数	日	11.4	11.0	△ 0.4 96.3
	診療単価	円	95,365	95,092	△ 273 99.7
	延患者数	人	250,472	277,860	27,388 110.9
	1日当たり患者数	人	1,031	1,143	112 110.9
	新規患者数	人	22,056	24,706	2,650 112.0
	診療単価	円	21,885	23,578	1,693 107.7
経常収益	入院収益	百万円	20,815	22,237	1,422 106.8
	外来収益	百万円	5,482	6,551	1,069 119.5
	その他医業収益	百万円	498	605	107 121.5
	医業収益 計	百万円	26,794	29,393	2,599 109.7
	一般会計繰入金	百万円	1,852	1,905	53 102.9
	その他収益	百万円	2,528	2,468	△ 60 97.6
経常費用	合計①	百万円	31,174	33,766	2,592 108.3
	給与費	百万円	14,838	16,103	1,265 108.5
	材料費	百万円	9,890	10,532	642 106.5
	経費	百万円	5,439	5,705	266 104.9
	その他医業費用	百万円	2,964	2,966	2 100.1
	医業費用 計	百万円	33,131	35,306	2,175 106.6
	その他費用	百万円	449	451	2 100.4
経常損益	合計②	百万円	33,581	35,758	2,177 106.5
	③(①-②)	百万円	△ 2,407	△ 1,992	415 -
	④特別利益	百万円	4	11	7 275.0
	⑤特別損失	百万円	50	408	358 816.0
⑥(③+④-⑤)		百万円	△ 2,453	△ 2,389	64 -

※1 金額は税込み。計数については、百万円未満四捨五入のため、合計が合わない場合がある。

2 診療機能の充実や施設・医療機器の整備状況

(1) 診療機能の充実

- ① (公財) 日本医療機能評価機構が定める病院機能評価¹の認定（令和6年6月）
- ② 「パートナーシップ搬送」²の開始（令和6年8月）
- ③ パルスフィールドアブレーション治療³の開始（令和6年11月）
- ④ 二次検査（健康診断等で要精密検査の判定を受けた方を対象）の開始（令和7年2月）

(2) 施設・医療機器の整備

- ① 無料Wi-Fiの整備による患者アメニティの向上（約47百万円）（令和6年6月）
- ② 胸部X線検査及び内視鏡検査へのAI（人工知能）活用を開始（約19百万円）（令和7年3月）

(3) その他

- ① FMゲンキ（79.3MHz）でラジオ番組「ハローはり姫」放送中（毎週水曜日 17時～）
(ホームページやYouTubeからでも視聴可能)
- ② 会計待ち時間の短縮（8割以上が15分以内）

3 今後の取組

- ① 不整脈センターを新たに設置（令和7年4月）
- ② はり姫 YouTubeチャンネル開設・配信（令和7年6月）
- ③ 脳卒中ケアユニット⁴（3床）の整備（令和7年6月）
- ④ 「二次検査予約専用ダイヤル 090-1693-3966」の受付時間を月～金曜日の11時から13時までに拡充（令和7年8月）
- ⑤ 治験コーディネーター養成講座開講（姫路市・神戸大学との共同事業）（令和7年10月）
- ⑥ 土曜日のMRI検査開始（令和7年10月予定）
- ⑦ 生体腎移植の開始（令和7年秋頃）
- ⑧ 老朽化した脳神経外科用の血管連続撮影装置を最新式に更新（より安全により早く脳血管内治療の実施が可能）（令和8年3月予定）

[参考] 令和6年度 兵庫県病院事業の経営状況について（別紙のとおり）

¹ 病院の医療の質や安全性を第三者が客観的に評価する制度

² 高度急性期病院で初期対応が終わった患者をより治療の適した地域の医療機関に移すこと

³ 心房細動の治療に用いられる最新のカテーテル治療法で、治療時間が短く患者の負担が軽減される

⁴ 脳卒中の患者を専門スタッフが24時間体制で集中的に治療・ケアする専門病床

記者発表（資料配布）				
月・日 (曜日)	担当部課 担当名	TEL	発表者名 (担当部長名)	その他の 配布先
9/16 (火)	丹波医療センター 総務部	代表 0795-88-5200 内線 1321	管理局長 細見 和正 (総務部長 井上 弘之)	県政記者 クラブ

令和6年度 県立丹波医療センターの経営状況について

1 経営状況

- (1) 経常収益は、救急患者の受け入れ促進や地域医療連携の推進による患者数の増加等により医業収益は増加し、新型コロナウイルス感染症対策関連補助金の減少と合わせて、前年度から 280 百万円の増加となり、10,587 百万円となった。
- (2) 経常費用は、給与改定等による給与費の増加、患者数増や高額の抗がん剤の使用増に伴う材料費の増加、建物修繕費、各種委託費の増加による経費の増加により、前年度から 682 百万円増加し、11,858 百万円となった。
- (3) その結果、経常損益は、前年度から 401 百万円悪化し、1,271 百万円の赤字となった。
- (4) また、特別損失に計上される旧柏原病院建物の解体撤去に係る費用が減少したことにより、純損益は前年度から 272 百万円悪化の、1,280 百万円の赤字である。

区分	単位	令和5年度	令和6年度	前年度比較	
				増減	割合(%)
業務量	病床数（年度末）	床	320	320	0 100.0
	延患者数	人	99,959	104,311	4,352 104.4
	1日当たり患者数	人	273	286	13 104.8
	新規患者数	人	6,624	6,537	△ 87 98.7
	平均在院日数	日	14.1	15.0	0.9 106.1
	診療単価	円	55,912	56,074	162 100.3
	延患者数 (医療センター分)	人	131,880 (117,117)	135,242 (119,467)	3,362 102.5 2,350 (102.0)
外来	1日当たり患者数 (医療センター分)	人	543 (482)	557 (492)	14 102.6 10 (102.0)
	新規患者数 (医療センター分)	人	17,265 (14,228)	16,975 (14,347)	△ 290 98.3 119 (100.8)
	診療単価 (医療センター分)	円	16,285 (17,109)	17,120 (18,044)	835 105.1 935 (105.5)
	入院収益	百万円	5,589	5,849	260 104.7
経常収益	外来収益 (医療センター分)	百万円	2,148 (2,004)	2,315 (2,156)	167 107.8 152 (107.6)
	その他医業収益	百万円	397	409	12 103.0
	医業収益 計	百万円	8,134	8,574	440 105.4
	一般会計繰入金	百万円	929	933	4 100.4
	その他収益	百万円	1,244	1,080	△ 164 86.8
経常費用	合計①	百万円	10,307	10,587	280 102.7
	給与費	百万円	5,541	5,814	273 104.9
	材料費	百万円	1,894	2,109	215 111.4
	経費	百万円	2,327	2,482	155 106.7
	その他医業費用	百万円	1,160	1,197	37 103.2
	医業費用 計	百万円	10,922	11,602	680 106.2
	その他費用	百万円	254	256	2 100.8
経常損益	合計②	百万円	11,176	11,858	682 106.1
	③(①-②)	百万円	△ 870	△ 1,271	△ 401 —
	特別利益④	百万円	11	1	△ 10 9.1
	特別損失⑤	百万円	150	10	△ 140 6.7
純損益⑥(③+④-⑤)		百万円	△ 1,008	△ 1,280	△ 272 —

※1 金額は税込み。計数については、百万円未満四捨五入のため、合計が合わない場合がある。

2 診療機能の充実や施設・医療機器の整備状況

(1) 診療機能の充実

- ① 特定行為看護師の活用による手術枠の増（令和6年10月～ 外科、整形外科につき、各1枠／週の増）
- ② 回復期リハビリテーション病棟における土曜日リハビリの開始（令和6年10月～）
- ③ 地域医療循環型人材育成プログラムの継続実施（平成20年10月～神戸大学に委託）

(2) 施設・医療機器の整備

- ① 全身用コンピュータ断層撮影装置の更新（1億3千1百万円）（7年1月）

3 今後の取組

- ① 丹波市ミルネ診療所、健診センター、訪問看護ステーションとの一体的な運営による患者の確保
- ② 消防本部との連携強化による救急患者の受入促進
- ③ 地域医療連携の強化
- ④ 地域医療教育センターによる人材育成の推進
- ⑤ 價格交渉の強化等による診療材料費の節減

[参考] 令和6年度 兵庫県病院事業の経営状況について（別紙のとおり）

記者発表（資料配布）				
月・日 (曜日)	担当部課 担当名	TEL	発表者名 (担当部長名)	その他の 配布先
9/16 (火)	淡路医療センター 総務部	代表 0799-22-1200	管理局長 西山 信彦 (総務部長 水嶋 裕一)	県政記者 クラブ

令和6年度 県立淡路医療センターの経営状況について

1 経営状況

コロナ禍後の患者の受療行動の変化等によって、5類移行後相当の期間を経過してもなお、患者数はコロナ禍以前の水準に回復しないなどの厳しい経営状況にある。

- (1) 経常収益は、地域医療機関との連携などによる入院・外来患者数の増加や入院単価の増加により、前年度から 266 百万円増加し、16,173 百万円となった。
- (2) 経常費用は、県給与改定による給与費増や物価上昇等による経費が増加し、前年度から 608 百万円増加し、16,969 百万円となった。
- (3) 経常損益は、収益増加よりも費用増加が上回ったため、前年度から 342 百万円悪化し、796 百万円の赤字となった。
- (4) その結果、純損益は、前年度から 314 百万円悪化し、800 百万円の赤字となった。

区分	単位	令和5年度	令和6年度	前年度比較	
				増減	割合 (%)
業務量	病床数(年度末)	床	441	441	0 100.0
	延患者数	人	125,673	127,504	1,831 101.5
	1日当たり患者数	人	343	349	6 101.7
	新規患者数	人	9,108	9,467	359 103.9
	平均在院日数	日	12.8	12.4	△ 0.4 97.3
	診療単価	円	77,332	78,371	1,039 101.3
	延患者数	人	193,306	193,588	282 100.1
	1日当たり患者数	人	795	797	2 100.3
	新規患者数	人	13,569	13,773	204 101.5
	診療単価	円	17,662	17,597	△ 65 99.6
経常収益	入院収益	百万円	9,719	9,993	274 102.8
	外来収益	百万円	3,414	3,406	△ 8 99.8
	その他医業収益	百万円	188	190	2 101.1
	医業収益計	百万円	13,320	13,589	269 102.0
	一般会計繰入金	百万円	1,657	1,675	18 101.1
	その他収益	百万円	930	909	△ 21 97.7
	合計①	百万円	15,907	16,173	266 101.7
経常費用	給与費	百万円	7,898	8,370	472 106.0
	材料費	百万円	4,587	4,488	△ 99 97.8
	経費	百万円	2,473	2,663	190 107.7
	その他医業費用	百万円	1,135	1,179	44 103.9
	医業費用計	百万円	16,092	16,700	608 103.8
	その他費用	百万円	268	268	0 100.0
	合計②	百万円	16,361	16,969	608 103.7
経常損益③(①-②)	百万円	△ 454	△ 796	△ 342	-
特別利益④	百万円	0	3	3	-
特別損失⑤	百万円	32	7	△ 25	21.9
純損益⑥(③+④-⑤)	百万円	△ 486	△ 800	△ 314	-

※1 金額は税込み。計数については、百万円未満四捨五入のため、合計が合わない場合がある。

2 診療機能の充実や施設・医療機器の整備状況

(1) 施設・医療機器の整備

- ① 血管連続撮影装置（約 154 百万円）の更新（6 年 10 月）
- ② 遠隔操作型内視鏡下手術支援システム（約 137 百万円）の更新（7 年 3 月）

3 今後の取組

物価上昇等の社会状況が厳しい中、令和 7 年 3 月に報告された「兵庫県立病院経営対策委員会報告書」に基づき、収益確保に取り組むとともに、コスト削減等に取り組んでいる。

- ① 病棟薬剤実施加算の新規取得
- ② MR I 検査体制の強化
- ③ リハビリテーション体制の充実
- ④ 病棟の一時休止（1 病棟）

[参考] 令和 6 年度 兵庫県病院事業の経営状況について（別紙のとおり）

記者発表（資料配布）				
月・日 (曜日)	担当部課 担当名	TEL	発表者名 (担当部長名)	その他の 配布先
9/16 (火)	ひょうごこころの医療センター 総務部	代表 078-581-1013 内線 2612	管理局長 門田 高弘 (総務部長 八木 充宏)	県政記者 クラブ

令和6年度 県立ひょうごこころの医療センターの経営状況について

1 経営状況

- (1) 入院収益は、救急患者数の増加に加え、各病棟の特性(急性期、慢性期、アルコール、児童思春期)に応じた受入れに積極的に取り組み、入院患者が全般的に増加したことから、前年度から173百万円増の1,838百万円となった。外来収益は、患者数とともに前年度並となつたが、経常収益は、コロナ関連補助金(その他収益)の皆減が影響し、前年度から19百万円増の4,241百万円となった。
- (2) 経常費用は、主に給与費の増加により、前年度から190百万円増加し、4,592百万円となった。
- (3) その結果、経常損益は、前年度から172百万円悪化し、351百万円の赤字となった。

	区分	単位	令和5年度	令和6年度	前年度比較	
					増減	割合(%)
業務量	病床数(年度末)	床	254	254	0	100.0
	延患者数	人	60,939	65,289	4,350	107.1
	1日当たり患者数	人	167	179	12	107.2
	新規患者数	人	1,117	1,174	57	105.1
	診療単価	円	27,317	28,143	826	103.0
	延患者数	人	50,305	50,371	66	100.1
	1日当たり患者数	人	207	207	0	100.0
	新規患者数	人	2,125	1,987	△ 138	93.5
経常収益	診療単価	円	7,274	7,214	△ 60	99.2
	入院収益	百万円	1,665	1,838	173	110.4
	外来収益	百万円	366	363	△ 3	99.2
	その他医業収益	百万円	17	18	1	105.9
	医業収益 計	百万円	2,048	2,219	171	108.3
	一般会計繰入金	百万円	1,731	1,749	18	101.0
	その他収益	百万円	444	273	△ 171	61.5
	合計①	百万円	4,222	4,241	19	100.5
経常費用	給与費	百万円	3,097	3,298	201	106.5
	材料費	百万円	177	188	11	106.2
	経費	百万円	639	654	15	102.3
	その他医業費用	百万円	413	381	△ 32	92.3
	医業費用 計	百万円	4,326	4,521	195	104.5
	その他費用	百万円	75	71	△ 4	94.7
	合計②	百万円	4,402	4,592	190	104.3
	経常損益③(①-②)	百万円	△ 179	△ 351	△ 172	-
特別利益④		百万円	0	2	2	-
特別損失⑤		百万円	23	1	△ 22	4.3
純損益⑥(③+④-⑤)		百万円	△ 202	△ 350	△ 148	-

※1 金額は税込み。計数については、百万円未満四捨五入のため、合計が合わない場合がある。

2 施設・医療機器の整備状況

- ① 診療管理棟エレベーター（約 28 百万円）の更新
- ② 児童思春期センター・南病棟の非常用電源蓄電池等(約 24 百万円)の更新

3 今後の取組

- ① 消防本部、警察署等との連携強化による救急患者の受入促進
- ② 効率的・効果的な病棟運営による病床利用率の向上・維持
- ③ 病院の特色や取組みについての積極的な情報発信

[参考] 令和6年度 兵庫県病院事業の経営状況について（別紙のとおり）

記者発表（資料配布）				
月・日 (曜日)	担当部課 担当名	TEL	発表者名 (担当部長名)	その他の 配布先
9/16 (火)	こども病院 総務部	代表 078-945-7300 内線 24010	管理局長 高崎 徳子 (総務部長 細見 能文)	県政記者 クラブ

令和6年度 県立こども病院の経営状況について

1 経営状況

- (1) 経常収益は、電子カルテ更新に伴う診療制限の影響及び少子化の影響の顕在化等により入院収益が減少したことから、前年度から 298 百万円減少し、14,295 百万円となった。
- (2) 経常費用は、給与改定による給与費が増加したこと等から、前年度から 1,224 百万円増加し、15,904 百万円となった。
- (3) その結果、経常損益は、前年度から 1,522 百万円悪化し、1,609 百万円の赤字となった。

区分	単位	令和5年度	令和6年度	前年度比較	
				増減	割合 (%)
業務量	病床数（年度末）	床	290	290	0 100.0
	延患者数	人	88,699	83,965	△ 4,734 94.7
	1日当たり患者数	人	242	230	△ 12 95.0
	新規患者数	人	7,445	7,399	△ 46 99.4
	平均在院日数	日	10.9	10.3	△ 0.6 94.9
	診療単価	円	106,173	106,417	244 100.2
	延患者数	人	110,708	108,193	△ 2,515 97.7
経常収益	外来	人	456	445	△ 11 97.6
	新規患者数	人	15,895	15,022	△ 873 94.5
	診療単価	円	18,232	18,851	619 103.4
	入院収益	百万円	9,417	8,935	△ 482 94.9
	外来収益	百万円	2,018	2,040	22 101.1
	その他医業収益	百万円	137	128	△ 9 93.4
	医業収益計	百万円	11,573	11,103	△ 470 95.9
経常費用	一般会計繰入金	百万円	2,281	2,448	167 107.3
	その他収益	百万円	739	744	5 100.7
	合計①	百万円	14,593	14,295	△ 298 98.0
	給与費	百万円	8,554	9,641	1,087 112.7
	材料費	百万円	2,719	2,625	△ 94 96.5
	経費	百万円	2,336	2,510	174 107.4
	その他医業費用	百万円	915	965	50 105.5
経常損益	医業費用計	百万円	14,524	15,741	1,217 108.4
	その他費用	百万円	156	163	7 104.5
	合計②	百万円	14,680	15,904	1,224 108.3
経常損益③(①-②)		百万円	△ 87	△ 1,609	△ 1,522 -
特別利益④		百万円	5	1	△ 4 20.0
特別損失⑤		百万円	11	2	△ 9 18.2
純損益⑥(③+④-⑤)		百万円	△ 93	△ 1,610	△ 1,517 -

※1 金額は税込み。計数については、百万円未満四捨五入のため、合計が合わない場合がある。

2 診療機能の充実や施設・医療機器の整備状況

(1) 診療機能の充実

- ① 入退院支援センターの体制拡充
- ② ドクターカー搬送体制の強化

(2) 施設・医療機器の整備

- ① 医療用直線加速装置（リニアック）（約 341 百万円）の更新（6年 12月）
- ② 薬剤部門システム（約 85 百万円）の更新（7年 3月）
- ③ ナースコールシステムサーバー（約 21 百万円）の更新（6年 9月）
- ④ 入退院支援センター（約 5 百万円）の整備（7年 1月）

3 今後の取組

- ① DPC 分析やクリニカルパス導入推進による入院単価の向上
- ② 手術室、医療機器の有効活用による手術・検査件数の増
- ③ 病床機能見直しによる経費削減
- ④ ファシリティドッging導入に向けた準備

[参考] 令和6年度 兵庫県病院事業の経営状況について（別紙のとおり）

記者発表（資料配布）				
月・日 (曜日)	担当部課 担当名	TEL	発表者名 (担当部長名)	その他の 配布先
9/16 (火)	がんセンター 総務部	代表 078-929-1151 内線 8180(8017)	管理局長 井上 博尊 (総務部長 粟飯原 弘尚)	県政記者 クラブ

令和6年度 県立がんセンターの経営状況について

1 経営状況

- (1) 医業収益は、延患者数が大きく増加したことによる、入院収益が大きく増加したこと等から、前年度から544百万円増加し、17,679百万円となった。一方でコロナ関連の補助金が終了したこと等からその他収益が前年度から49百万円減少したものの、経常収益は、前年度から489百万円増加し、19,168百万円となった。
- (2) 経常費用は、薬品費の値引き額の拡大等による材料費が180百万円減少したものの、人事委員会勧告等による給与費の増加、また最低賃金の上昇や物価高の社会情勢の影響により委託料等が増加したこと等から前年度から495百万円増加し、19,453百万円となった。
- (3) この結果、経常損益は、前年度から6百万円悪化し、285百万円の赤字となった。

区分	単位	令和5年度	令和6年度	前年度比較	
				増減	割合 (%)
業務量	病床数（年度末）	床	360	360	0 100.0
	入院 延患者数	人	91,141	103,712	△ 12,571 113.8
	入院 1日当たり患者数	人	249	284	35 114.1
	入院 新規患者数	人	7,274	7,855	581 108.0
	入院 平均在院日数	日	11.5	12.2	0.7 106.3
	入院 診療単価	円	76,818	73,936	△ 2,882 96.2
	外来 延患者数	人	166,475	170,066	△ 3,591 102.2
	外来 1日当たり患者数	人	685	700	15 102.2
	外来 新規患者数	人	8,520	8,817	297 103.5
	外来 診療単価	円	58,584	56,470	△ 2,114 96.4
経常収益	入院収益	百万円	7,001	7,668	667 109.5
	外来収益	百万円	9,753	9,603	△ 150 98.5
	その他医業収益	百万円	380	408	28 107.4
	医業収益計	百万円	17,135	17,679	544 103.2
	一般会計繰入金	百万円	842	836	△ 6 99.3
	その他収益	百万円	702	653	△ 49 93.0
	合計①	百万円	18,679	19,168	489 102.6
経常費用	給与費	百万円	6,597	6,973	376 105.7
	材料費	百万円	9,199	9,019	△ 180 98.0
	経費	百万円	2,173	2,421	248 111.4
	その他医業費用	百万円	886	937	51 105.8
	医業費用計	百万円	18,855	19,350	495 102.6
	その他費用	百万円	103	103	0 100.0
	合計②	百万円	18,958	19,453	495 102.6
経常損益③(①-②)	百万円	△ 279	△ 285	△ 6	-
特別利益④	百万円	2	1	△ 1	50.0
特別損失⑤	百万円	7	2	△ 5	28.6
純損益⑥(③+④-⑤)	百万円	△ 284	△ 286	△ 2	-

※1 金額は税込み。計数については、百万円未満四捨五入のため、合計が合わない場合がある。

2 診療機能の充実や施設・医療機器の整備状況

(1) 診療機能の充実

- ① ゲノム医療の推進
 - ・がんゲノム医療拠点病院（全国で 32 機関）
 - ・遺伝子パネル検査の実施（令和 6 年度実績：156 件）
 - ・先進医療の実施
 - ・県内他院に対する遺伝診療の応援
- ② がん相談支援センターの機能強化
- ③ 入退院支援センターの機能充実
- ④ 希少がんセンターの開設
- ⑤ チーム医療の充実
- ⑥ A Y A 世代サポートチームの活動強化

(2) 施設・医療機器の整備

- ① 内視鏡システム一式の更新（約 23 百万円）（令和 6 年 12 月）
- ② 超音波診断装置の更新（乳腺外科）（約 13 百万円）（令和 6 年 9 月）
- ③ 超音波診断装置の更新（脳神経外科）（約 12 百万円）（令和 6 年 9 月）

3 今後の取組

- ① がんゲノム医療拠点病院としての機能強化
 - ・遺伝子パネル検査の実施、検査対象患者への支援
 - ・ゲノム外来、遺伝外来（遺伝カウンセリングを含む）の充実
- ② リニアックによる高精度放射線治療（IMRT、定位照射）の促進
- ③ 都道府県がん診療連携拠点病院としての連携強化
 - ・地域医療機関への訪問、意見交換
 - ・市内がん検診実施医療機関への患者紹介の働きかけ
 - ・相談支援センターにおける治療と仕事の両立支援強化
 - ・インターネット予約の開始
- ④ 治験・臨床研究の推進
- ⑤ 低侵襲手術等への取り組み（ダヴィンチ、腹腔鏡、胸腔鏡）
- ⑥ 脳神経外科の診療促進
- ⑦ がん患者リハビリテーションの強化
- ⑧ 新病院建築工事等の推進

[参考] 令和 6 年度 兵庫県病院事業の経営状況について（別紙のとおり）

記者発表（資料配布）				
月・日 (曜日)	担当部課 担当名	TEL	発表者名 (担当部長名)	その他の 配布先
9/16 (火)	粒子線医療センター 事務部	代表 0791-58-0100 内線 272	事務部長 天羽 由浩 (総務課長 井口 公夫)	県政記者 クラブ

令和6年度 県立粒子線医療センターの経営状況について

1 経営状況

- (1) 経常収益は、紹介元医療機関向け及び患者・一般向け広報に積極的に取組んだことから、実患者数が入院・外来とも増加したため、前年度比126百万円増加の2,738百万円となった。
(内訳 たつの：1,795百万円、神戸：943百万円)
- (2) 経常費用は、耐用年数経過に伴う減価償却費の減少などにより、前年度比140百万円減少の3,809百万円となった。
(内訳 たつの：2,466百万円、神戸：1,343百万円)
- (3) 上記の理由により経常損益は、前年度より266百万円改善し、1,071百万円の赤字となった。
(内訳 たつの：△671百万円、神戸：△400百万円)

区分	単位	令和5年度	令和6年度	前年度比較	
				増減	割合(%)
業務量	病床数（年度末）	床	50	50	0 100.0
	延患者数	人	8,599	9,219	620 107.2
	1日当たり患者数	人	23	25	2 108.7
	実患者数	人	218	250	32 114.7
	診療単価	円	78,041	86,789	8,748 111.2
	延患者数	人	14,293	13,188	△ 1,105 92.3
	1日当たり患者数	人	59	54	△ 5 91.5
	実患者数	人	375	376	1 100.3
経常収益	診療単価	円	61,810	68,180	6,370 110.3
	入院収益	百万円	671	800	129 119.2
	外来収益	百万円	883	899	16 101.8
	その他医業収益	百万円	7	43	36 614.3
	医業収益 計	百万円	1,562	1,742	180 111.5
	一般会計繰入金	百万円	493	513	20 104.1
	その他収益	百万円	557	483	△ 74 86.7
経常費用	合計①	百万円	2,612	2,738	126 104.8
	給与費	百万円	957	942	△ 15 98.4
	材料費	百万円	82	82	0 100.0
	経費	百万円	1,720	1,722	2 100.1
	その他医業費用	百万円	923	818	△ 105 88.6
	医業費用 計	百万円	3,681	3,564	△ 117 96.8
	その他費用	百万円	268	245	△ 23 91.4
合計②		百万円	3,949	3,809	△ 140 96.5
経常損益③(①-②)		百万円	△ 1,337	△ 1,071	266 —
特別利益④		百万円	0	14	14 —
特別損失⑤		百万円	0	0	0 —
純損益⑥(③+④-⑤)		百万円	△ 1,337	△ 1,057	280 —

※1 県立粒子線医療センター（たつの）と神戸陽子線センター（神戸）を合算している。

※2 金額は税込み。計数については、百万円未満四捨五入のため、合計が合わない場合がある。

2 診療機能の充実や施設・医療機器の整備状況

(1) 診療機能の充実

- ① 県立粒子線医療センター、附属神戸陽子線センター、県立がんセンターによるがん診療ネットワークの運用（テレビ会議システム等を活用したキャンサーボードの実施。）
(令和6年度実施回数：585回)
- ② 保険適用の拡大に向けた臨床試験（先進医療B）の実施
- ③ 肺がん・肝がん・膵がんに対する粒子線治療の治療成績と安全性の向上
- ④ オンライン診療による患者利便性の向上（令和6年度利用者 194人（たつの：87人、神戸：107人））
- ⑤ イベント開催時での個別がん相談の実施

3 今後の取組

- ① メディアミックスによる広報の展開
- ② 患者・一般向け見学会・講演会の開催
- ③ 神戸圏域放射線治療共同利用連合参加による診療連携

[参考] 令和6年度 兵庫県病院事業の経営状況について（別紙のとおり）

記者発表（資料配布）				
月・日 (曜日)	担当部課 担当名	TEL	発表者名 (担当部長名)	その他の 配布先
9/16 (火)	兵庫県災害医療センター 事務部	代表 078-241-3131	事務部長 北川直人 (総務課長 松本和子)	県政記者 クラブ

令和6年度 兵庫県災害医療センターの経営状況について

1 経営状況

- (1) 業務量は、延べ入院患者数が昨年度より 117 名増加し、新規入院患者数はほぼ前年度並みを確保できたが、経常収益は、診療単価、入院収益が減少したため、前年度から 12 百万円減少し、2,280 百万円となった。
- (2) 経常費用は、給与費、材料費は減少したが、物価高騰等により経費が 42 百万円増加したことにより、前年度から 5 百万円増加し、2,322 百万円となった。
- (3) 経常損益は、前年度より 17 百万円増加で、42 百万円の赤字となった。

業務量	区分	単位	令和5年度	令和6年度	前年度比較	
					増減	割合(%)
入院	病床数(年度末)	床	30	30	0	100.0
	延患者数	人	7,905	8,022	117	101.5
	1日当たり患者数	人	22	22	0	100.0
	新規患者数	人	959	951	△8	99.2
	平均在院日数	日	7.3	7.4	0.1	101.4
	診療単価	円	181,742	176,350	△5,392	97.0
外来	延患者数	人	250	232	△18	92.8
	1日当たり患者数	人	1	1	0	100.0
	新規患者数	人	239	218	△21	91.2
	診療単価	円	337,716	327,754	△9,962	97.1
経常収益	入院収益	百万円	1,437	1,415	△22	98.5
	外来収益	百万円	84	76	△8	90.5
	その他医業収益	百万円	12	9	△3	75.0
	医業収益 計	百万円	1,533	1,500	△33	97.8
	一般会計繰入金	百万円	0 (739)	0 (782)	0	—
	指定管理料収入	百万円	673	726	53	107.9
	その他収益	百万円	86 (146)	54 (133)	△32	62.8
経常費用	合計①	百万円	2,292 (885)	2,280 (915)	△12	99.5
	給与費	百万円	1,422 (46)	1,405 (36)	△17	98.8
	材料費	百万円	488	457	△31	93.6
	経費	百万円	293 (674)	335 (727)	42	114.3
	その他医業費用	百万円	16 (130)	18 (126)	2	112.5
	医業費用 計	百万円	2,219 (850)	2,215 (889)	△4	99.8
純損益	その他費用	百万円	99 (35)	107 (26)	8	108.1
	合計②	百万円	2,317 (885)	2,322 (915)	5	100.2
	経常損益③(①-②)	百万円	△25 (0)	△42 (0)	△17	—
特別利益	特別利益④	百万円	0	0	0	—
	特別損失⑤	百万円	0	0	0	—
	純損益⑥(③+④-⑤)	百万円	△25 (0)	△42 (0)	△17	—

※1 金額は税込み。計数については、百万円未満四捨五入のため、合計が合わない場合がある。

※2 参考として、病院局決算（指定管理料、派遣職員給与費等）を（ ）書きで記載している。

2 診療機能の充実や施設・医療機器の整備状況

(1) 診療機能の充実

- ① 高度救命救急センターとして、医療の質及び救命率の向上を図るため、新型コロナ対策を勘案したハイブリッドE R（高度救命初療室）診療やE C P R（体外循環式心肺蘇生法）と一連の体温管理療法プロトコールを確立し、実践・運用を行っている。
- ② 神戸市域を中心に県内各地から3次救急患者の受入れを行うほか、ドクターカーの運行やドクターへリによる搬送患者の受入れを行い、重篤患者に対応する高度救命救急センターとしての役割を果たした。
- ③ 基幹災害拠点病院として、災害時の患者受入れ体制の強化を図るとともに、D M A T隊員や救急救命士などの災害医療従事者に対する研修や訓練を実施している。
- ④ 神戸市など県内消防機関及び隣接する神戸赤十字病院をはじめとする2次救急医療機関との連携を強化し、引き続き重症患者の受入れ促進を図る。また、感染症対策として責任病床2床を確保し、感染症患者の受入れ体制を維持した。
- ⑤ M S W（社会福祉士）の早期積極的介入やひょうごこころの医療センター等との診療協力による適切なベッドコントロールにより在院日数の適正化を図り、円滑な転院を進めた。
- ⑥ 新たに病院救命士の採用を開始するとともに、専門看護師や医師事務補助者等の活用を図ることにより、タスク・シフトを促進している。

(2) 施設・医療機器の整備

- ① 生体情報モニタの更新（24百万円）（令和7年3月）
- ② 総合医療情報システム（265百万円）（令和7年3月）
- ③ 手術用移動型X線透視診断装置（36百万円）（令和7年3月）

3 今後の取組

- (1) ハイブリッドE R診療、E C P Rと一連の体温管理療法プロトコール適応症例の積み重ねを行い、これら特徴的な臨床現場を、研修医師など院内外のメディカルスタッフの研鑽の場として提供する。
- (2) 県内の各消防本部や2次・3次医療施設と連携をとることで患者受入れ・後送を円滑に行い、コロナ禍が明けても同様に地域医療における当センターの使命である外因を中心とした重症症例の集約施設としての機能を消防・近隣医療機関と連携しつつ、維持向上させる。
- (3) 開院から21年を経過し、施設や医療機器の老朽化の進みに対応するため、医療機器の適切な更新を図るとともに、施設や設備についても必要な点検、修理を実施し、機能維持に努める。
- (4) 現在のB C Pは地震想定部分が多いことから、感染症アウトブレイクやパンデミック、風水害にも適用できるようオールハザードを基本として改訂を図る。
- (5) 救急医、特定看護師、D M A T隊員や救急救命士を対象とした教育研修会（O F F - J T）や訓練を実施し、引き続き県内外の救急災害医療従事者の人材育成を図る。

[参考] 令和6年度 兵庫県病院事業の経営状況について（別紙のとおり）

記者発表（資料配布）				
月・日 (曜日)	担当部課 担当名	TEL	発表者名 (担当部長名)	その他の 配布先
9/16 (火)	リハビリテーション中央病院 総務部	代表 078-927-2727 内線 2228	管理局長 隅岡 繁宏 (総務部長 今中 隆洋)	県政記者 クラブ

令和6年度 県立リハビリテーション中央病院の経営状況について

1 経営状況

- (1) 経常収益は、入院患者数が減少したものの手術件数の増加等により入院収益が増加した一方、院外処方へ移行したことにより外来収益が減少したため、前年度から 38 百万円減少し、5,217 百万円となった。
- (2) 経常費用は、院外処方へ移行したことにより材料費が減少した一方、給与改定により給与費が増加したことにより、前年度に比べ 22 百万円増加し、5,236 百万円となった。
- (3) その結果、経常損益は、前年度よりも 60 百万円減少し、19 百万円の赤字となった。

業務量	区分	単位	令和5年度	令和6年度	前年度比較	
					増減	割合(%)
入院	病床数（年度末）	床	330	330	0	100.0
	延患者数	人	94,380	89,343	△ 5,037	94.7
	1日当たり患者数	人	258	245	△ 13	95.0
	新規患者数	人	1,960	1,979	19	101.0
	平均在院日数	日	47.4	33.7	△ 13.7	71.1
	診療単価	円	40,117	42,876	2,759	106.9
外来	延患者数	人	56,866	58,138	1,272	102.2
	1日当たり患者数	人	234	239	5	102.1
	新規患者数	人	2,875	2,887	12	100.4
	診療単価	円	16,946	15,409	△ 1,537	90.9
経常収益	入院収益	百万円	3,786	3,831	45	101.2
	外来収益	百万円	964	896	△ 68	92.9
	その他医業収益	百万円	74	69	△ 5	93.2
	医業収益 計	百万円	4,824	4,796	△ 28	99.4
	一般会計繰入金	百万円	0 (329)	0 (350)	0	—
	指定管理料収入	百万円	317	336	19	106.0
	その他収益	百万円	114 (354)	85 (379)	△ 29	74.6
経常費用	合計 ①	百万円	5,255 (683)	5,217 (729)	△ 38	99.3
	給与費	百万円	2,806 (10)	2,893 (11)	87	103.1
	材料費	百万円	1,279	1,221	△ 58	95.5
	経費	百万円	1,129 (318)	1,122 (338)	△ 7	99.4
	その他医業費用	百万円	0 (329)	0 (354)	0	—
	医業費用 計	百万円	5,214 (657)	5,236 (703)	22	100.4
	その他費用	百万円	0 (25)	0 (26)	0	—
経常損益	合計 ②	百万円	5,214 (683)	5,236 (729)	22	100.4
	③ (①-②)	百万円	41 (0)	△ 19 (0)	△ 60	—
	特別利益 ④	百万円	0 (0)	0	0	—
	特別損失 ⑤	百万円	0	0	0	—
純損益⑥ (③+④-⑤)		百万円	41 (0)	△ 19 (0)	△ 60	—

※1 金額は税込み。計数については、百万円未満四捨五入のため、合計が合わない場合がある。

※2 参考として、病院局決算（指定管理料、派遣職員給与費等）を（ ）書きで記載している。

2 診療機能の充実や施設・医療機器の整備状況

(1) 診療機能の充実

- ① 回復期リハビリテーション病棟においてより質の高いリハビリテーションの提供
- ② 「スポーツ医学診療センター」におけるスポーツ障害等に対する包括的な対応

(2) 施設・医療機器の整備

- ① 一般撮影装置の更新（約 15 百万円）（7 年 1 月）
- ② 総合医療情報システムの更新（約 1,200 百万円）（7 年 3 月）
- ③ パノラマ断層撮影 X 線診断装置（歯科）の更新（約 15 百万円）（7 年 3 月）

3 今後の取組

- ① リハビリテーション入院機能の充実
- ② 地域医療連携の強化

[参考] 令和 6 年度 兵庫県病院事業の経営状況について（別紙のとおり）

記者発表（資料配布）				
月・日 (曜日)	担当部課 担当名	TEL	発表者名 (担当部長名)	その他の 配布先
9/16 (火)	リハビリテーション西播磨病院 業務部	代表 0791-58-1050 内線 204	管理局長 喜多 晃 (業務部長 木村 晃一)	県政記者 クラブ

令和6年度 県立リハビリテーション西播磨病院の経営状況について

1 経営状況

- (1) 経常収益は、急性期病院との連携強化、積極的な病院訪問による入院患者の増加やレカネマブを使用したMC I治療による外来患者の増加と診療単価の増加により、前年度比較で118百万円増加し、1,893百万円となった。
- (2) 経常費用は、医療職の賃金改善のためのベースアップ評価料に伴う給与改定による給与費の増加やレカネマブを使用したMC I治療に伴う薬品費の増加、物価高騰の影響により、前年度比較で125百万円増加し、1,917百万円となった。
- (3) 経常損益は、前年度比較で7百万円減少し、24百万円の赤字となった。

区分	単位	令和5年度	令和6年度	前年度比較	
				増減	割合(%)
業務量	病床数(年度末)	床	100	100	0 100.0
	延患者数	人	31,597	32,659	1,062 103.4
	1日当たり患者数	人	86	89	3 103.5
	新規患者数	人	515	528	13 102.5
	平均在院日数	日	60.0	61.0	1.0 101.7
	診療単価	円	39,889	39,890	1 100.0
	延患者数	人	8,727	9,304	577 106.6
	1日当たり患者数	人	36	38	2 105.6
	新規患者数	人	1,238	1,231	△7 99.4
	診療単価	円	37,563	43,620	6,057 116.1
経常収益	入院収益	百万円	1,260	1,303	43 103.4
	外来収益	百万円	328	406	78 123.8
	その他医業収益	百万円	25	23	△2 92.0
	医業収益計	百万円	1,613	1,732	119 107.4
	一般会計繰入金	百万円	0 (123)	0 (134)	0 —
	指定管理料収入	百万円	120	129	9 107.5
	その他収益	百万円	42 (206)	32 (260)	△10 76.2
	合計①	百万円	1,775 (329)	1,893 (394)	118 106.6
経常費用	給与費	百万円	1,033 (0)	1,048 (0)	15 101.5
	材料費	百万円	312	387	75 124.0
	経費	百万円	447 (120)	482 (130)	35 107.8
	その他医業費用	百万円	0 (194)	0 (247)	0 —
	医業費用計	百万円	1,792 (314)	1,917 (377)	125 107.0
	その他費用	百万円	0 (14)	0 (17)	0 —
	合計②	百万円	1,792 (329)	1,917 (394)	125 107.0
経常損益③(①-②)	百万円	△17 (0)	△24 (0)	△7 —	—
特別利益④	百万円	0	0	0	—
特別損失⑤	百万円	0	0	0	—
純損益⑥(③+④-⑤)	百万円	△17 (0)	△24 (0)	△7 —	—

※1 金額は税込み。計数については、百万円未満四捨五入のため、合計が合わない場合がある。

※2 参考として、病院局決算（指定管理料、派遣職員給与費等）を（ ）書きで記載している。

2 診療機能の充実や施設・医療機器の整備状況

(1) 診療機能の充実

レカネマブに加えドナネマブによるアルツハイマー病による軽度認知障害（MCI）及び軽度の認知症に対する治療への取組（令和7年1月）

(2) 施設・医療機器の整備状況

オンライン資格確認システムにおける資格確認端末の増設及び患者の健康診断・薬剤情報・診療情報の電子カルテ上での参照に向けた改修（令和7年3月）

3 今後の取組

- ① 患者確保に係る取組強化
- ② 軽度認知障害（MCI）の早期発見から診断後支援に至る取組
- ③ 神経難病リハビリテーションセンターの取組

[参考] 令和6年度 兵庫県病院事業の経営状況について（別紙のとおり）